

ワラジムシ類

分類 等脚目ワラジムシ科

学名 Oniscidae

英名



写真出展元：公益社団法人 日本ペストコントロール協会

■解説

代表種であるワラジムシは、世界的には温帯から冷帯にかけて広く分布し、日本全土に生息している普通種であり、畑地、原野、林内などいろいろな場所で見られ、近年、都市の住宅地でも見られるようになった。越冬場所を求めて建物内の床下に潜入することがあり、春に越冬を終えた個体が野外へ脱出する際に目撃され、不快害虫として問題になることがある。乾燥に弱く、常に土の含水量が20%程度の場所を求める。夜行性であるため、昼間は湿度の高い物陰に集合して隠れている。繁殖時期は春と秋の年2回であり、1回に40個前後産卵する。卵は雌の腹面にできる育房の中で孵化する。幼虫は孵化後育房を破って離脱し、しばらくの間、母虫の体に付着している。孵化後3ヶ月で8mm程度まで成長し、繁殖可能な状態になる。

■体長

卵：－

幼虫：－

成虫：11m(ワラジムシ)¹⁾

■産卵数

産卵数/生涯：－

産卵数/1回：20～30卵²⁾

■ライフサイクル

卵：－

幼虫：－

成虫：－

■発育零点（発育停止温度）

－

【参考文献】

1) 田中生男：住環境の害虫獣対策、p454、(財)日本環境衛生センター(2001)